

がんの予防や早期発見 60人 大切さ学ぶ

応其小で「生命の授業」

【橋本】 がんについて学ぶ授業が19日、橋本市立応其小学校(森下まちこ校長)であり、6年生約60人が「紀和病院・紀和プレスト(乳腺センター) (同市)の梅村定司医師(52)から予防や早期発見の大切さを教わった。

2人に1人が発症するといわれるがんを子供たちに正しく理解してもらおうと、同病院などが市内の小学6年生を対象に「がん教育、生命の授業」として実施しており、この日は保護者ら約50人も聴いた。

梅村医師は、喫煙や過度の飲酒など発症原因や、リスクを減らすための日常の心構えを解説。「身近な病気だが、正しく恐れることが大切」と述べた。

子供たちは、家族など大切な人が発症しないためにできることを話し合い、「検診をしっかり受ける」「たばこは吸わない」など意見を出した。

谷本明日香さん(12)と森本麻奈可さん(12)は「がんは怖いけど、検診などで予防できることが分かった。きょうだいや親戚にも伝えたい」と話した。

【松野和生】



梅村定司医師(右奥)の説明に聴き入る6年生
＝橋本市立応其小学校で

平成30年(2018) 日刊27195号

9|20 [木]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN

発行所 ©産業経済新聞大阪本社 2018
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
☎ 大阪(06)6633-1221(大代表)



橋本・応其小で がん教育の授業

橋本市の市立応其小学校で19日、「がん教育」の授業が行われ、同校6年の児童と保護者計約100人が、がんについて学んだ。写真。

市内の医療法人南労会紀和病院などが企画。平成27年、市教委などと試験的に市立小学校2校で行われたのが始まりで、今年度は全小学校で実施する予定。同院紀和プレスト(乳腺)センター長の梅村定司医師が、食事を健康的に工夫したり、たばこをやめたりすることで予防に効果がある期待できるケースもあるとし、「がんを早く見つけるためにも検診が必要。がんになっても家族で力を合わせて闘うことが大切」と伝えた。

同校6年、北澤功惺さん(12)は「がんという病気を改めて知り、家族とも話し合いたいと思った。大人になってもお酒やたばこはあまりしないように気をつけたい」と話していた。